・　今回もありがとうございました。
冒頭課題については確かに年齢が離れた人と喋る時に違いを感じる時が多いので（このコミュニティも例外ではない）、若い人と喋るときに、違いを汲み取る、頭ごなしに受け取らない、を目標にすることとした。結局ただの話題だけだったらやる気のない子と受け取られてしまいそうな話題だったけれど、他の部分を知っているからこそそのまま信じて聞けたところがある。コーチング的な関わり（次の方向にもっていくとか）はできなかったけれど、相手を信頼して聞くということはできたかなと思う。このお題以前からそれなりに関わりのある子だったからこそできた部分はあるかもしれない。

他の人の話題のなかであった、先輩・上司が忙しそうだから話せなかった、という発言に対して必ずしもそうではないこともあるのでは、とコメントした。本当に忙しそうだから声をかけられない、ということもあるけれど、たとえばその忙しい中で短く話して理解してもらえなさそう、とか、もともと話を聞いてくれなさそう、とかむにゃむにゃしたものがある結果として「忙しそうだから声をかけられない」という発言が出てくる可能性もあるだろうと思った。今は私は若い人の立場だけれども、先輩とかの立場に立ったら言葉通りに受け取ってしまう可能性があることも想像できる。（余計なことを考えすぎてしまう時があるので）自分に無理のない範囲で相手がどういう状況である結果としてその発言が出てきているのか、については常に考えるようこれからも心がけたい。
だからこそ、他の参加者がクライアントのセッションで、クライアントが悩んでいる内容についていわゆる一般的な回答というのを思ったのは全然相手のことが見れておらずにもっと考えるべきだったと思う。オンラインとオフラインで受ける情

報量が違うというのはそのクライアントはおそらく理解した上で言っているのに、その後のほかの選択肢については私は全く思いつきもしなかった。面白みがないやつだなあと我ながら思うし、そういうところが現時点の課題だ。

最後のセッションの鍵となるコメントは「それはなにか困ることがあるのか？」これは私がクライアントをやっていてもよく質問されることなのだが、"It's not my bussiness"という一文を思い出します。私が関わらざるを得ない状況になっていても、それは私が関わらないといけない状況なのだろうか？引くに引けない状況になっているだけなんじゃないか、改めてセルフコーチングで使っていこうと思う。今勝手に抱え込みやすい状態になっているので。
（30代女性　千葉県）